

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400086		
法人名	社会福祉法人 京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム 京都ミモザの郷(なのはなユニット)		
所在地	京都市下京区中堂寺前田町26番地		
自己評価作成日	2019年3月4日	評価結果市町村受理日	令和元年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690400086-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690400086-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1番地「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①昨年8月より新たに安全衛生委員会を設け、事業所内の職員の安全面や環境衛生全般、感染予防に取り組んでいる。
②ご利用者が食事を楽しめるよう、栄養科が季節感のある献立を提供しており、ユニットでも職員と一緒に調理をする機会を作り、外食の支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(ひまわりユニット)と同じ
---------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に必ず理念の説明を行い、朝礼時に繰り返し唱和することで、職員の気持ちの拠り所となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・開所時より施設内の地域交流室を開放しており 昨夏には町内の地蔵盆に利用して頂いた。 ・交流のある児童館でお使い頂くため、ベルマークの収集をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が当施設のサービスを利用されている事で、自然に情報交換が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて運営状況や行事、事故等の報告をしており、率直な意見を頂いている。職員には会議の場で内容を伝えており、議事録は職員がいつでも見られるところに保管している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営において不明な点は、必ず相談・報告を行っており、事故報告の際や混乱事例の際には、詳細を説明し、アドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設けており、内部研修を開催し、不適切なケアを理解する機会を設けており、職員同士が連携を取る事で、お互いに確認する環境が有る。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員で委員会活動として内部研修を行っている。 京都市の虐待防止のマニュアルを自由に閲覧する事ができ、意識を持てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をテーマとした内部研修を実施。 また、権利擁護に関しての研修にも参加する事で学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスを利用される前に、ご利用者並びにご家族とお会いし、契約書・重要事項説明書を用いて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の代表に出席して頂いており、ご質問や、ご意見にお答えしている。また、施設玄関にご意見箱を設置し、ご家族の要望等を把握し、施設運営会議で周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの会議で出た意見を、主任が持ち寄り 施設長・管理者を含めた運営会議の場で討議している。また職員と個別に面談もしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で就業規則を見直し、働きやすい環境の整備に努めている。また、安全衛生委員会によるストレスチェックや、職員の安全に配慮した取り組みも進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会による内部研修を、理解しやすいように工夫しており、外部の研修に関しては案内を掲示し 希望者が出席しやすい環境を整えている。 新規入職者には、施設長や主任がオリエンテーションを行っている。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都市老人福祉施設協議会に加入しており、施設長会議や研修会を通して情報共有をしている。また同法人内の施設で連携を取り、職員同士が交流できる機会を設けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員を担当制にしている。直接伺ったこと、会話の中から判明したことをケアプランに取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面接時に、ご本人・ご家族それぞれに対してご要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅療養管理指導や、訪問マッサージ等が必要な場合は対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご利用者に洗濯物を畳んで頂いたり、洗い物をして頂けるようにお伝えする際も職員が側で一緒にすることを常に意識するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご利用者の思いや生活の様子を詳細にお伝えする事により、関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントにより把握した、人・物・場所・地域との関係を維持し、再会できるよう職員で協議している。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	全体でのリクリエーション開催や、ご利用者 の性格や好みを把握し、食事席の検討やご 利用者同士の会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた際には情報を提供、グ リーフケアの実施。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用前の面接時、ケースカンファレンス等 を通じ、ご本人やご家族の希望を伺って いる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご利用前の面接により、ご本人やご家族か ら情報収集をしている。外部サービス提供 がなされていた場合は、その事業所からの 情報を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	サービスを提供する中で、状態に変化が あった場合には、支援記録等に記載し、職 員一人一人が現状把握すると共に、毎月の ユニット会議でも随時検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ユニット会議には、看護師や管理栄養士も 出席し 各職種からの意見と、面会時に聞き取った ご家族の希望を共有し、ケアマネがそれを 集約して計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、連絡ノートを活用し、担当職員 からの発信や、情報の共有を行っている。 それらの確認を毎月のユニット会議にて実 践している。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模施設のメリットを生かし、新たな規定の作成や変更を、その都度検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時にご利用者が興味を持たれた物や、景色などを把握し、次回の外出計画を立てたり、普段の会話に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医との関係を継続出来るよう、情報の提供や受診の支援等を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護の記録を一元化しており、常にお互いの記録を確認できる環境に有る。ユニット会議には必ず、看護師も出席しており意見交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供し、退院時カンファレンスの開催依頼、参加が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の対応が可能な範囲での説明を行い、承諾を得ている。提供病院の往診医とも連携を密にしており、ご家族の希望が有れば、在宅復帰や療養型施設への入所支援などを行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクに対する勉強会の開催(参加)と、看護師からの指導を状態変化時や、変化が想定される時にユニット会議でも受けている。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しているが、立地が住宅密集地であることから、地域との連携が必須であり、運営推進会議や町内会に働きかけている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が心掛け、ご利用者それぞれの人格の尊重と、プライバシーを守った声掛けをしているつもりではあるが、統一が難しく不十分な部分もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を急がず、理解して頂くように伝える等、お一人お一人の力に合わせて、希望に添えるような対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離、臥床の時間、食事の時間、入浴の時間等 職員の都合で時間設定をするのではなく、ご利用者のご希望をお伺いし、出来る限りご希望に添えるような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の習慣やこだわりを大切に、好きな洋服や髪型が出来るように、その時の気持ちを伺い、職員間で支援の共有を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯はユニットで行っており、ご利用者と一緒にお米を洗っている。配膳や下膳もご自身の役割として手伝って下さったり、食器洗いを進んでして下さる方もおられる。ユニットでの調理はリクリエーションとしてご利用者と一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録、把握している。看護師・栄養科と情報を共有し、摂取量の減少が見られた際には支援方法を検討し、高カロリーゼリーの提供や、ご家族の協力を得てご本人の好みの品を購入して頂いている。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々口腔ケアが行えるよう支援している。口腔内にトラブルが見られた際は、速やかに訪問歯科に依頼し、症状に合わせた処置をして頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を元に、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう取り組んでいる。おむつ等を使用されておられるご利用者には、羞恥心に配慮した交換を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物を工夫し、水分摂取を促す。食事やおやつも栄養科と連携を取り、常に見直している。出来るだけ体を動かして頂けるような声掛けを行い、下剤に頼らない快適な排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各ユニットに個浴が有る為、時間、曜日も関係無く利用出来る環境に有る。ご本人様に確認し、希望が有れば入浴して頂き、拒否された場合は時間帯や翌日に変更する等、ご希望を伺っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に臥床時間を設けているご利用者もおられる。就寝時間も決まった時間に休んで頂くのでは無く、お一人お一人のご希望に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が変更や追加になれば薬情を配布し、職員は内容を確認、把握している。記載されている効能や副作用も確認し、服薬後の症状にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員がご利用者を理解し、ご本人の出来る事をして頂いている。好みの会話内容や趣味等の話題を提供している。		

京都府 グループホーム 京都ミモザの郷（なのはなユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行えていないが、ご利用者のお誕生日には、職員と一緒に外食を楽しまれたりしている。季節感を持って頂ける様、花見や紅葉狩り等の外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が希望されてもご家族が許可されない例も有る。施設の金銭取り扱い体制も検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みは制限しておらず、電話の取次ぎや手紙の代筆も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物の作成・毎月のカレンダー作成等、利用者様と一緒にしている。室温は設定基準が有るが、ご利用者の感覚に合わせて調整している。ご利用者にとっては、職員も環境の一部だと認識して対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者がどのように過ごしたいかのお気持ちを大切に、状況に合わせて環境作りが出来るよう工夫している。会話の橋渡しを行ったり、ゆっくりと傾聴出来る時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具や、茶碗・箸、飾られていた写真等、ご本人にとって馴染みの有るものを持参して頂いている。。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のご意向を第一に、生活を送って頂くよう取り組んでいる。生活の中でご自身で出来る事は無理のない範囲でお声かけし、して頂いている。		